

CNAC 第6回全国フォーラム 講師、パネラープロフィール

■基調講演「海と共に生きる」 2012.2.4 13:55～

畠山 信（講師） NPO 法人「森は海の恋人」 副理事長



1978年気仙沼市生まれ。地元の高校を卒業後、C.W.ニコルが実習長を務める専門学校に入学。卒業後、鹿児島県屋久島で環境教育に携わる。帰郷し、牡蠣漁師として生活しながら2009年に特定非営利活動法人森は海の恋人を設立。2011年3月、東日本大震災で被災。全国各地から訪れる災害支援団体、ボランティアの受け入れ調整に奔走。唐桑地区を中心に持続可能な地域づくりを目指す。

■パネルディスカッション「それでも海から学んでいこう」 2012.2.4 14:30～

小池 潔（コーディネーター） CNAC 理事 & マリンオフィス ムーンベイ 代表



琉球大学在学中より、沖縄本島でスクーバダイビングのガイドを始める。卒業後、CBSソニーに勤務するも水中映像ビデオのプロモーションに関わったのをきっかけに、再び海に引き戻される。ダイビングインストラクターとして海での活動を再開する傍ら、スノーケリングを中心とした自然体験活動の経験を積む。延べ3000名以上の参加者に、江の島を中心とした地元の海を紹介している。

●マリンオフィス ムーンベイ主宰/ジェーン・グドール インスティテュート ジャパン理事長。

🗣️ パネラー

阿部 正人 南三陸町立歌津伊里前小学校 教諭



玉川大学農学部を卒業後、東京都子ども会連合会事務局を経て、宮城県立気仙沼養護学校に採用。気仙沼市立面瀬小学校では、面瀬川やミミズを使った環境教育プログラムの作成に関わる。地域や専門機関との連携を図りながら、地域の身近な環境を見つめ、未来を考えていく総合的な学習の時間を米国の小学校と交流しながら取り組んできた。気仙沼市立鹿折小学校では、突きん棒漁を教材化した。南三陸町立伊里前小学校では、これまで地域と連携して行われていたワカメを素材とした総合的な学習の時間の実践をさらに深めるために、大学や専門機関、NPO と連携して教材開発を進めた。3月11日には、地域の避難所となっていた高台にある小学校の校庭まで津波が押し寄せた。直前に、校長の指示で、2次避難、3次避難を行い、地域の方々の協力もあって児童全員が無事に避難できた。現在、南三陸町立伊里前小学校5学年を担任している。

橋本 久夫 NPO 法人いわてマリフィールド 理事長



氏名 橋本 久夫（はしもとひさお）
略歴 岩手県宮古市生まれ（1955年2月22日）
特定非営利活動法人いわてマリフィールド理事長
（有）タウン情報社代表取締役編集長
宮古市ヨット協会会長
岩手県ヨット連盟副会長
みやこジュニアセーリングクラブ代表
みなとまちづくりマイスター
宮古市議会議員（2010年4月～）

NPO 活動状況

平成14年4月	特定非営利活動法人いわてマリフィールド設立
平成15年4月	リアスハーバー宮古の運営を市から受託
平成16年1月	ニュージーランド青少年交流事業開始
平成16年5月	日本港湾協会企画賞受賞
平成17年7月	海旅三陸事業実施
平成18年1月	宮古湾藻場調査事業開始
平成18年4月	指定管理者として岩手県からリアスハーバー宮古を受託
平成19年4月	岩手日報「いわての風」連載執筆開始
平成19年8月	全国都市再生モデル調査事業開始 「宮古湾周辺における親水空間の形成による新観光資源創出プロジェクト」
平成19年10月	水辺のユニバーサルデザイン大賞奨励賞受賞
平成19年11月	岩手県「元気なコミュニティ100選」に認定
平成20年7月	帆船あこがれ宮古港受け入れ
平成23年3月	津波によりリアスハーバー宮古指定管理者解約
平成23年10月	復興イベント「三陸シーカヤックマラソン」開催

遊佐 雅美 NPO 西浜ライフセービングクラブ所属 NPO 法人日本ビーチ文化振興協会理事



平成4年より現在のライフセービング協会の理事長 小峯力氏の紹介により、ライフセーバーとしての活動をスタートする。
平成6年よりライフセービング世界選手権に出場し、ビーチフラッグス競技において4度の優勝、世界チャンピオンに輝いている。
1994～2009年まで国内17連覇、2011年は通算18回目の優勝をとげた第一人者。
NPO 法人日本ビーチ文化振興協会の理事として全国にて『海辺安全教室』や講演を行う。「海辺を守ろう！運動」ではメッセージャーとして啓発活動中。

- NPO西浜ライフセービングクラブ所属/NPO法人日本ビーチ文化振興協会理事。